



じとせんひろば

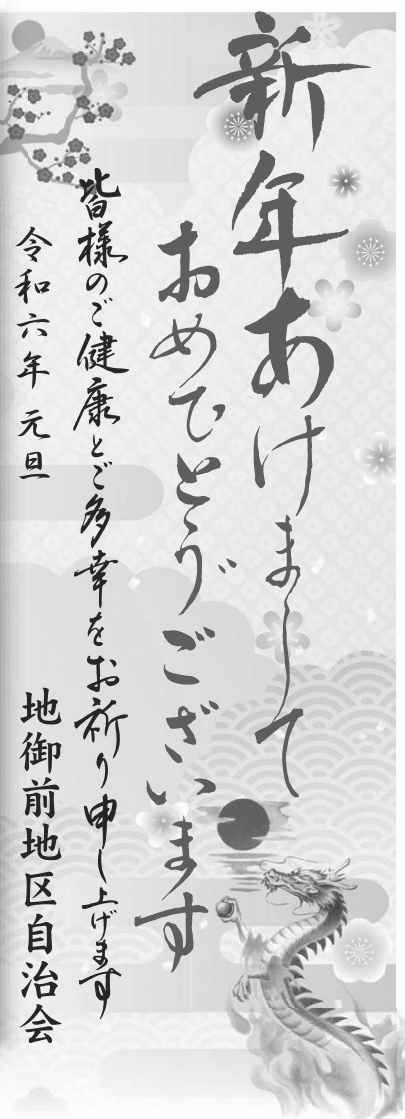
No.113 2024年(令和6年)1月1日

地御前地区自治会

地御前地区自治会公式LINE登録はこちらから↓



原の伊勢神社から瀬戸内海を見る 辻 秀策さん撮影



新年あけましておめでとうございます
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます
令和六年元旦 地御前地区自治会

2020年以來、3年を経てようやく落ち着きを見せはじめた新型コロナウイルス感染症。2023年は観光やイベントも本格的に回復した。特にスポーツは躍進の一年だった。

3月のWBC優勝や新井カークのCS進出など、先ず野球に関しては一年中盛り上がり欠くことはなかった。

5月、エックスゲームズ千葉(スケートボード、BMX、モトX)ではBMXで片桐悠(18歳)が優勝。スケートボードで小野寺吟雲(13歳)が史上最年少優勝。

6月には廿日市市で「みやじま国際パワートライアスロン大会2023FINALE」が4年ぶりに開催され、7月には「ウッドワケン玉ワールドカップ」が開催された。

8月には男子バスケット日本代表がFIBAバスケットボールワールドカップでアジア1位となり、パリ2024オリンピック出場権を勝ち取った。

10月にはラグビーワールドカップ・フランス大会で日本代表は二次リーグ突破こそならなかったものの、日本中を沸かせた。

様々な地域活動も数年ぶりに開催された。夏祭りin野坂公園、地御前盆踊り、秋祭りの神楽、地御前市民センターまつりなど。御陵衣祭や管絃祭も例年通り行われた。

これからはWebや公式LINEでも活用し、地元の活動や人物を知って頂いて、皆さんのDiscover地御前のお役に立ちたい。

令和5年11月3日10時~15時、地御前小学校創立150周年祭(地御前小学校PTA主催、地御前地区自治会・地御前シニアクラブ連合会・地御前郷土文化保存会・地御前地区自主防災会・廿日市消防団第四分団共催)が行われた。

直前にインフルエンザ流行による地御前小学校や野坂中学校の学級閉鎖や学年閉鎖が相次いだ。大人から子どもまで500人以上が集い、素敵な交流の場となった。

司会はアナウンサーの馬場さん。自然なトーンと抑揚で、この会にピッタリの親しみやすさと安心感を醸し出した。



ハッピーオレンジのダンス



創立百周年記念碑と記念樹(1974年当時)

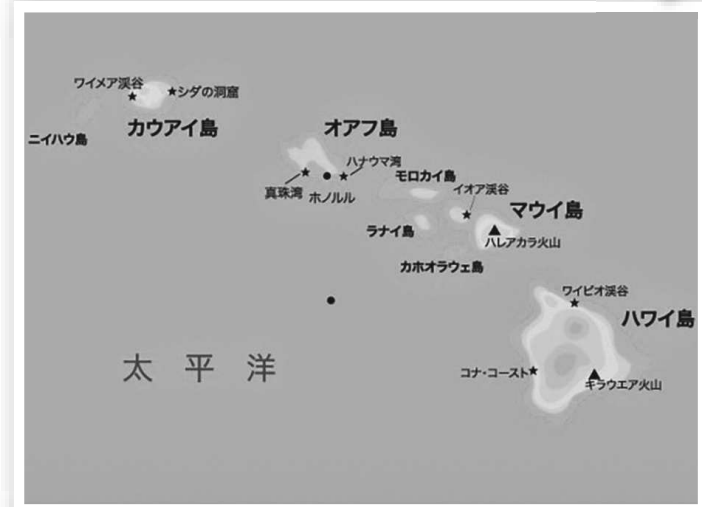


現在の記念碑と記念樹

地御前小学校創立150周年祭

「地御前ものがたり」海を渡ってハワイへ

令和5年11月13日、廿日市市地御前からのハワイ移民を先祖にもつアーサー・タニグチさん、バーン・マナカさんが廿日市市役所を表敬訪問した。この度の訪問は廿日市市とハワイ郡(ハワイ島)の友好提携事業の一環で行われたもので、松本太郎市長ほか、歓迎し、地御前郷土文化保存会からの郷土史「地御前ものがたり」10部を贈呈した。



とんどのお知らせ

令和6年1月14日(日)地御前神社の沖(地御前5丁目31付近)でとんどを行います。年男・年女を現地で募って12時頃に点火予定です。正月飾りなどはそれまでにお持ち寄り下さい。小雨決行・雨天中止。

当日9時に地御前神社に集合して準備開始予定です。有志の皆さんのご協力をお願いします。

地御前郷土文化保存会



「発行」地御前市民センター内 地御前地区自治会 広報事業部

★「今ある『普通』は昔の人の『理想』でできている」地御前小学校創立150周年の歴史を調べていて気づいた。私たちが求める理想は、いづれ子どもたちの普通になる。理想から普通への継承が私たちの進歩・発展の証。★いろんなイベントができるのも平和あってのこと。ガザ地区の戦闘やウクライナでの戦争が終結することを祈る。★「いい人すぎるよ美術館」が話題に。巡回開催で2月に広島パルクにて。地御前でも通学路沿線に「寒いのにいい人すぎるよ美術館」があるけどね J・K

★AI(人工知能)の進化は著しく、手放し状態で進化すると人間の存在も危ぶまれる。この度「広島AIプロセス」が合意された。また、国際紛争も絶え間なく続き泥沼の様相。何事もほどほどがよろしいようで、中庸の法則を見習ってほしいものである。「中庸の法則」とは調和と平衡を重視する中国の思想であり、極端なものを避け、中道を行くことを指す。極端な過ちを犯すことなく、適切なバランスを保つことが美徳であるとされている。中庸の法則は、個人の行動や社会の秩序、政治の原則においても適用されるとされている。 Y・Y



トビックス 防災総合訓練

令和6年3月17日(日)キラキラ公園で総合防災訓練を行います。今回は地震体験車を借りることにしています。自治会公式LINEやホームページで詳細をお伝えしますので、日程が近づいてきたらご確認ください。

踏切り渋滞の緩和に向けて

毎日のように列車の緊急停車で踏切り渋滞が起きている。J.A.広島病院西側踏切の広電・JR線路間退避スペースにセンサーが増設されてから件数が急増した。歩行者は退避スペースに留まらなければならぬような無理な横断をせず、踏切に入らずに警報が鳴り始めた場合は、引き返す選択も考えなければならぬ。

また地御前電停踏切りでは、自動車による踏切横断に関して、少しでも多くスムーズに踏切を通行できるように、国道二号線に本線への合流レーンが設けられている。踏切出口で止まらずに本線と並走できることを知らないドライバーが多い。是非活用を心がけて頂きたい。



編集後記

1. 一旦停止
2. 踏切の向こう側が詰まっていることを確認
3. 警報機が鳴っていないことを確認
4. 進行(踏切内では止まらない)(踏切内のセーフゾーンも停車できません)
5. 青い矢印に従って側道に入る(ここで止まらない)
6. 先端まで進んで合流

ハッピーオレージのダンス「笑顔」で始まり、戸崎校長の挨拶、松本市長の祝辞と続き、「地御前小学校のおいたち150年」のプレゼンテーション。自治会広報事業部長が8月から準備して作り込んだ力作だ。

駆流舞の「さあさ 駆流舞ヴァージョン」「ロックソーラン」はステージから飛び降りて客席で踊るといふ演出も冴えて迫力満点だった。



上段：駆流舞 下段：廿日市空手道スポーツ少年団

それから今年の鹿児島国体に出た斎藤七星(ななせ)さんが見事なスピードと体幹で型を披露した。

次は廿日市柔道連盟地御前支部の中から地御前の児童2人を含む3人が受け身、回転受身、大外刈り、背負い投げなどを披露した。



軽やかな回転受け身に拍手喝采

剣道団体戦全国大会優勝！ 地御前小6年生 三河武臣くん

令和5年9月17日、大阪のおきにアリーナ舞洲で開かれたパナソニック杯第18回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の団体戦で三河武臣くん(みかわたけおみ)地御前小学校6年生剣道志会が優勝しました。剣道の団体戦は先鋒、次鋒、中堅、副将、大将の5人で戦って勝敗数を競います。小学生の試合時間は2分間。時間内に先に2本取るか、終了の時点で1本を取っている方が勝ちで、どちらも1本を取っていなければ引き分けとなります。5人が戦って勝敗数が同じ場合は代表戦で団体戦の勝敗を決めます。三河くんは副将として団体戦を戦い、優勝しました。

三河くんは幼い時から剣道を始めました。両親、お祖父ちゃんから剣道を習ってきた筋金入りの剣士です。小学生になつて試合に臨むようになった頃から、ずっと日本一を目指して稽古に励んでいます。週5日、稽古をしています。中学生、高校生、大学生、社会人になつても日本一を目指して剣道を続けてゆきたいと話します。こう書きだすと、如何に小学生と言えどもどこか近寄りたがたいアスリートを想像してしまいますが、武臣くんはひと目見た印象も、話してみても、とても親しみやすく、礼儀正しい男の子です。

某ダンススクールの地御前小児童を含むメンバーがこの日のために結成してくれたシャイニング・ドリームスがダンスを披露。曲は「DNA」。

そして地御前小学校の代表児童男女による「地御前小学校創立150周年記念宣言」
「私たちは150年間の大勢の方々の働きによって、今の地御前小学校があることを知りました。便利な世の中、安全な環境、快適な暮らしが同様に大勢の方々によって築かれてきたこと、支えられていることを思い起こしました。知ること、思い起こすことはあらゆる良い事の始まりであることを知っています。」

地御前小学校で学ぶこと、社会で学ぶこと、人生で学ぶことを、自分や家族、隣人や地域、社会のために活かしてゆけるよう努めます。」

最後に実行委員長の新見真幸さんが話をした。

「去年、他校が150周年を迎えたが、記念品を渡したただけだったと聞いた。コロナで学校などでの催し物も体験できなかった子どもたちのことを考えると、是非とも子どもたちの記憶に残る楽しい行事をやりたいと思った。元PTA会長に話したところ共鳴して頂き、少人数からのスタートだった。最終的にはこうして多くの人の力が集まって、こんなに盛大な150年祭ができ、皆さんで祝えて本当に嬉しい。」

見たいテレビややりたいゲーム、友達と遊んだりを犠牲にすることもあったでしょうし、夏は胴衣で暑い上に、面をつけていて顔の汗を拭うこともできない。冬は氷のように冷たい体育館の床に裸足。稽古を続けてきて、辛かったことや嫌になったことがないか尋ねてみました。辛さはあったものの、それで剣道が嫌になったということはない出せないとのことでした。

夜7時からの稽古に、小学生たちがやって来ました。誰もが体育館に入る前に立ち止まって礼をしていました。胴衣を身につけると、正座で用意をしている先生のところへ行って1人ずつ正座をして礼(座礼)。稽古の始まりも一列に正座をし、座礼をしてから面を付けるといった手順で稽古が始まりました。8時半までの稽古では、途中で休憩を挟みながら、打ち込み、切り返し、技練(わざれん)、地稽古(じげいこ)、かかり稽古と段々とキツイ稽古をします。竹刀が胴衣を打つ音、打ち込んだ時に床をドンと打つ足の音、気合いのこもった掛け声が体育館に響きます。お父さんと武臣くんの2人が下級生の相手を務めながら、自分の番にはお父さんを相手に武臣くんも稽古をしていました。稽古の最後には始めと同じように先生と生徒が向かい合つて一列に正座をして黙想をします。そして座礼、上座に向きを変えて座礼、下座に向きを変えて座礼。稽古を終えました。

続いて江田島在住のシンガーソングライター、樹(MIKI)さんのコンサート。アンコールでは、樹さんがステージに子どもたちを上げ、子どもたち約50人が手拍子でジャンプしながら、樹さんオリジナル曲のご当地応援ソング「おいでよ江田島」を「じごぜん」に歌詞を変えて合唱する場面では会場が一体になった。



アンコールの「おいでよ地御前」で会場は最高潮に

そして大抽選会。二等はJCB商品券一万円、二等は五千元が4本など。五等でもQUOカード500円×40本など超豪華。ここで体育館での第一部が終了し、午後からは校庭を中心とした第二部を開始。

稽古の後に武臣くんのお母さんから全国大会の試合の様子を撮影した動画を見せてもらいました。稽古の時と全く同じ姿勢で戦っている武臣くんの姿を見て、同じ稽古を週5日続けて力をつけて来たことは、こういうことなんだなと思いました。

今や剣道は全世界で220万人を擁するスポーツで、世界大会も開かれています。しかし全日本剣道連盟は「剣道が武道ではなくなる」という理由でオリンピック競技化に反対しています。勝利至上主義と二線を画し、武道で重要視される相手を尊重し礼節を重んじる武道の文化を守るためです。

自治会の運営会議に試合の報告に来てくれた時に初めて武臣くんに会い、郷土学習のために市民センター図書室に班でたまたま来ていた時や、地小創立150周年の特別授業の時にも武臣くんに会いました。何事に対しても変わらない態度で真面目に楽しく取り組んでいる姿が印象的でした。剣道でも後輩剣士から尊敬される憧れの存在だと思えます。これからどんどん取り巻く環境も変化してゆくとありますが、怪我無くますます成長して、世界に飛び出して行くことができることも楽しみです。



稽古の終わりに一人ずつ所見を受ける

食バザーは焼きそば、フランクフルト、おにぎり、ドーナツ、コロッケ、じゃがりこ、クッキー、飲み物などを児童とPTAとで提供した。



本物の防火衣を着たり、運転席に乗ったりした

アトラクションは消防団によるポンプ車体験、自治会青少年事業部によるゲームウォークラリー(的抜き、靴飛ばし、輪投げ、クイズ探し)、自治会保健体育事業部によるモルックやグラウンドゴルフ、PTAによるヨーヨー釣り。他にも参加者を募ってやった「炭酸飲料早飲み大会」「大声コンテスト」も大盛況だった。

制服や体操服のリユースコーナーも作った。ピンゴ大会、木村PTA会長の挨拶、餅撒き・お菓子撒きで午後3時に散会となった。

それから片付けの間も子どもたちは興奮が冷めやらぬ様子で、体育館やグラウンドを駆け



PTA有志で焼きそば350食を作って提供した



炭酸飲料早飲み大会

山廣詩羽さん(野坂中2年生) 全日本陸上競技大会出場

2023年8月22日(火)から25日(金)に愛媛県総合運動公園陸上競技場で第50回全日本陸上競技選手権大会が行われ、野坂中学校から山廣詩羽(やまひろ)うた)さんが100m走に出場しました。



野坂中の「N」サインポーズ。山廣さんは右から二人目

全国大会出場権は二つの県大会のいずれかで標準記録を上回る結果を出すことで得られます。詩羽選手は両方で標準記録を出して全国大会に出場しました。

全国大会は惜しくも決勝への出場を逃しましたが、詩羽選手は都道府県対抗400mリレーの強化選手に選ばれ、10月7日、8日に国立競技場で行われた「みんなであつなごうリレーフェスティバル2023」にも出場しました。

詩羽さんが陸上競技を始めたきっかけは、2歳の時、5歳上の

回つて遊んでいた。ようやく帰りは始める頃にも、「楽しかった」と子どもたちが口々に言っていた。このように地域の催しができることは、普段から育まれている人のつながりがあるからこそだ。地御前小学校創立150周年を記念するに相応しい盛大な催しとなった。

試合の時に集中力を高める方法は?と質問すると、「誰とも話さず、自分を信じる」とのことでした。陸上競技は孤独なスポーツなのかと思いきや、原動力は何ですか?と質問をすると、即座に「仲間です。」と答えが返ってきました。どんなふうに原動力になるのかを更に尋ねると、良いタイムが出た時の達成感も、一緒に喜んでくれる仲間によって倍増されることや、自分より少し上のタイムを出す「ライバル」という仲間も向上心を維持する原動力だとのこと。

「うーちゃん」のニックネームで呼ばれて、仲間同士で賑やかにおしゃべりしている様子は、見ているだけでウキウキ感にこちらも呑み込まれそうになるくらいでした。仲間とのつながりが苦しい鍛錬を乗り越える力になって

いることや、部活の仲間と二緒に
いる時のイキイキとした表情を
見て、改めて学校教育の中での
クラブ活動の意義を強く実感し
ました。



「おもしろい大人」 才野力(さいのつとむ)先生 (野坂中学校)

野坂中学校に「火曜日が地獄
です」というロゴTシャツがある。
陸上長距離部員とサッカー部員
が火曜日にやる合同練習の過酷
さからこのTシャツができた。仕
掛け人はサッカー部顧問の才野
先生だ。ちなみにその火曜日の
合同練習は、1周200メートル
×3周(600m)を2分で走
り、2分インターバルを取る、を
5回〜10回(下校時間による)
繰り返すという練習。2分で
600m走れなければそれだけ
インターバルが短くなるという過
酷なもの。4回目のインターバル

面白い。崎村さん、さて正解は？
「ミッキーマウス！」

プチ遊園地気分を楽しんで
「いつてきまゝす。」「いつてらっ
しゃ〜い」と互いに手を振った。
いつの間にかお社の大きな檜皮
葺屋根の棟に1羽のアオサギが
とまつて遠くを見ていた。

この光景に童謡「たきび」を
思い出す。ダイオキシンやら煙
が近所迷惑になるやらで焚き
火もめつたに見なくなつた今日
この頃。落ち葉で焚き火ならぬ
落ち葉でアート。自然を楽し
み、季節の移ろいを味わう通学
路のコミュニケーションは、地御前
神社の素敵な朝の光景。



11月12日(日)4年ぶりの地
区運動会が予定されていました
が、インフルエンザの流行で通常
開催は断念し、用意していた参
加賞を渡して、抽選会のみの実



辺りでは、走り終えた部員は全
員がハアハアと息を切らしてい
て、その場の空気が薄くなつてい
るかのよう感じるほど。5回
目がスタートした。才野先生は
人ひとりにさまざまなゲキを飛
ばす。「△△〜首ふるな〜腕ふ
れ〜!」「ワクチン打つた次の日に
病気が出て休んだ〇〇〜!前に
出え〜!」「130(高跳び)飛べ
んで悔しかった××〜!」「◇◇
〜!それじゃあ試合(サッカー)に
ならんど〜!」「わずかな時間し
か見ていなくても、二人ひとりに
いつも関心を持って、よく知ってい
ることが伝わってくる。5回目の
インターバル。脇腹を抑えたり、
座り込んで「ごはんが出て来そ
うです。余った給食のパン食べ過
ぎた笑)」「どうせあと2周ある
んじやろ?」とみんな苦しそうな
のに、どういう訳か見ていて実に
清々しい。何て気持ちのいい子た
ちだろうと感じる。「火曜日が
地獄です」の部活にこうしてみ
んなが喰らいついてゆけるのは何
故だろう。才野先生のプロフィール
に迫ってみた。



施となりました。それでも約
350名の老若男女が地御前
小学校体育館に集い、休日のひ
とときを共に過ごしました。

地御前地区自主防犯会、地御
前地区自治会、静香庵、ヘアスタ
ジオバズル、デフヘアー、お好み焼
き「わかみや」、お好み焼き「福
の神」、ふじ寿司、パナライフワタ
ナベからの提供品で行った抽選
会は、地御前地区自治会創立45
周年記念行事の一環としても行
われました。運動会の競技はで
きませんでしたが大勢の方々が
集まって下さった様子を見てい
て、次回は是非とも例年通りの
内容で開催したいと強く感じま
した。

実行委員長 田村 寿



才野 力、51歳。小学校の時
に出会った体育の先生に憧れを
抱いた。中・高大とサッカーに没
頭し、サッカー選手か体育教師
になりたいとずっと思っていた。
中学生の時に見たトップガンで
トム・クルーズにも憧れた。大学
卒業後に大型二輪免許を取得。
映画に出て来たカワサキGPZ
900を購入。自らを「ツトム・
クルーズ」と呼んで今でも乗ってい
る。大学卒業後は高校の臨時講
師として勤めながら社会人サッ
カーを続け、広島県選抜プレイ
ヤーとして広島国体に出場して
優勝した経験を持つ。翌年に中
学校教師として正式採用され、
最初の任地が野坂中学校だつ
た。野坂中に5年勤めて、大野
中、阿品台中、大竹中に赴任。再
び野坂中に来て8年目となった。
初めて来た頃の野坂中は荒れ
ていて、警察に逮捕される生徒が
出るほどだったそう。でも今はそ
の頃に生徒だった教え子も結婚

10月27日 地御前人權啓発推進協議会 主催講演会 「自分らしく 生きるために 選んだこと」

川本理恵さん(33才写真家)
千尋さん(フリーライター)

幼児の頃から男の子が好むも
のが好きで、女の子の好む色、服
装、アイテムに対してモヤモヤ感
があつたが、それが何なのかわか
らなかつた。小6の頃には服装
は完全に男子。女子として見ら
れることが嫌で、絵理という名
前で呼ばれることも嫌(女子の
名前だから)だった。自分のこと
を「わたし」と言うことも嫌だつ
たし、「ぼく」と言うことで変な
目で見られる事も嫌だったので、
出来るだけ自分からは話さな
かつた。トイレも行くのを見ら
れるのが嫌で、いつも授業中に先
生の許可を得てトイレに行つて
いた。日常のそんなひとつひとつ
にも常に違和感がつきまるとつて
いた。自分は普通じゃない、人と
違う、と劣等感の塊のような自
分になっていた。それでいてそん
な自分を理解して欲しい、認め
て欲しいという気持ちを悶々と
抱えていた。

5歳の時から母がホストファ
ミリーとして留学生の受け入れ
をしていたため、外国人と二緒に
暮らすことがよくあつた。外国

して親になり、その子どもをま
た野坂中で今受け持つっている。教
師ならではの喜びを感じている。教
師、友達、部活、家庭、いろんな
山や谷のある多感な思春期にあ
る子どもたちと過ごして、そして
迎える卒業式のみんなの笑顔が
教師としての一番の醍醐味。そこ
からの将来、活躍する姿、頑張っ
ている姿、大人になつてゆく姿に
会える時がまたこの上ないとい
ふこと。

大学時代に出会った女性と結
婚して3人の息子さんがいる。
「子育ては妻のワンオペでした。
息子にサッカーを教えたことが
ない。」「いわゆる紺屋の白袴であ
る。」「息子には『僕はお父さんの
ようにはならない。子どもと遊
んだりする父親になる』と言わ
れてます。(笑)」後悔はないか尋
ねると才野先生は「そういうも
のでしよう」と答えた。でもそう
言う息子さんたちは3人とも
サッカーをやり、長男は沖繩のプ
ロサッカーチームでコーチを、次男
は今も大学でサッカーを続けて
いる。今まで試合を見に行つたこ
とがなかつたが、次男の大学生活
最後の試合が今度あるので、そ
れは見に行くつもりだとのこと。
そこまでして生徒たちのため
に献身できるものなのかと思っ
てしまふが「そういうものでしょ
う」の言葉に才野先生の生き方
や奥さんの献身、息子たちの尊
敬が詰まっていると思つた。生徒
たちが「火曜日が地獄です」に

の異文化に接することで、文化・
慣習・価値観など、それぞれ個
性的なものでいろいろあり、一人
ひとりの個性もそもそも違う
ものなのだという気づきや受容
性が芽生えた。
高校の時に友達に初めてカミ
ングアウトした。その友達との関
係がどうなるか怖かつたが、「絵
理は絵理だからそれでええじゃ
ん。」と言ってくれ、受け入れら
れたという安心感で満たされた。
その人の過去や背景ではなく、
その人自身を見て接することで
人間関係を築くことができるこ
とを知つた。

毎日、押し寄せて来る普通と
の違いに自分は蓋をすることが
出来なかつた。大学生になり、よ
り主体的に本来の自分に向き
合つてゆく取り組みを始めた。
大学3年から医療機関でのカウ
ンセリングを受け始めた。これは
性転換手術を受ける為に必要
なプロセス。女性から男性に戸
籍を変える(男性の名前に変え
ることも含む)為に胸や子宮を
取る手術を受ける必要があつた。
(最近、その手術を受けていな
くても別の性に戸籍を変えるこ
とを認める初めての判決が出た)
24歳の時に摘出手術を受けた。
男性ホルモン注射で声が低く
なつている。(子宮摘出で女性ホ
ルモンが作られない為、ホルモン
注射をしないと更年期障害の症
状が出現する)摘出で体の持つ
自然な機能の有り難みを知つた。

喰らいついて行く姿には「僕の趣
味に付き合つてもらつてる」と才
野先生は苦笑した。



地御前神社境内の 落ち葉アート

通学路の見守りを始めて11
年、トイレ奉行として3年。通
学・通勤で通る人にとって、郷土
文化保存会の崎村さんはすっか
り地御前神社境内の朝の顔だ。
境内のイチヨウの落ち葉でハ
ート型を作つたのは去年からの思
いつき。

通行手形がわりのいつもの「元
気出しジャンケン」の他に、今朝は
クイズが加わつた。昨年もあった
ハート型の他に、もう一つ描いてあ
る落ち葉アートを前に「ん」と
考える子どもたち。間違つた答
えをしては申し訳ないと一生懸
命に考えている。やがて「く
ま!」「たぬき!」「ネズミ?」
「ミッキーマウス?」「リス?」(私の
回答)「というんな回答が出る。

性転換手術を受けた頃にカ
メラと出会い、これだと思つた。パ
イトと掛け持ちしながら、知り
合つた4人のカメラマンに掛け
合つて仕事を手伝わせてもらい、
カメラの技術と経験を積んだ。
人を撮るのが好き。私は小柄な
ので相手に威圧感を与えること
がなく、撮られる側に安心して
もらえるようだ。

妻、千尋と出会つて、付き合
い始める前にトランスジェンダーであ
る事を告白した。千尋は驚きは
したものの、むしろより深く互
いを知り、惹かれ合い、理解し合
い、認め合い、お互いにとって大切
な存在になつていった。結婚を決
意し、大切な人の大切な家族も、
自分にとって大切な人になつた。
大切な人が増えて行くにつれて
「自分のことを知つて欲しい」、わ
かつて欲しい、認めて欲しいとい
う内向きなベクトルよりも「相
手のことを知りたい、分かりたい、
認めたい」という外向きのベクト
ルが働くようになった。

「雫と千」というユニット名で
作品作りをし、インスタグラムな
どで発表している。

※講演の要約は、ご本人の承諾を
得て掲載

